

# まなざし

初めての場所で、初めて出会うひとと、初めての暮らしのなかで過ごしてきた一学期です。たくさんの遊びから、友達や保育者の刺激を受けて「やってみたい」を重ねる毎日のなかで「できた」や「もう1回」を感じています。まだまだこども園での生活は始まったばかり。全部が『初めて』の経験になるこあら組の子ども達の、一学期の姿をお伝えします。



## 偶然からの遊び ～やってみた～

テラスはお気に入りの場所のひとつ。机にもなり、転がすおもちゃにもなる木製の電線ドラムに空いた穴に、ある日おもちゃがポトンと落ちました。「どうやって出そうかな？」と考え、転がしてみると、コロコロと小気味良い音が聞こえます。音が聞きたくて、テラスを何往復も転がして、音を聞く遊びに変化していきます。みんな押してみたい。「か～わって～」「い～い～よ～」と、自然と交代しながら、押して転がして、の遊びが続きます。それでもやっぱり、おもちゃを取りたいという気持ちは変わらず。すると今度は、「(穴の中に)はいれるかなあ？」とのぞき込み、頭を穴に入れようとしたり、「足やったら入るんちゃう？」とつま先を穴に入れてみたりしますが…。「あかんかったわ～」と、これもまた一つ経験。最後は保育者が持ち上げ支えながら、無事に取り出すことができました。

## 運動場で出会った

今は暑くて戸外に出られない日が多いですが、天気の良い日は毎日のように運動場に出て遊びます。好きな遊びは、虫探し、遊具遊び、おいかけて、しっぽ取り…色々な遊びを楽しんで、友達や保育者と関わってきています。

春はダンゴムシ探しに夢中!!はじめの頃は、運動場の真ん中や草むらで「いるかな～」と探したり、「ダンゴムシさ～ん」と大声で呼びかけたりして、色々な場所を探し回っていました。それが、繰り返し虫探しをするうちに、どうやら石(レンガ)の下にいるらしい、日陰になっている場所がよく見つかる、ということに気がつき、探す場所が変わってきました。



虫探しという遊びを通して、少しずつ生き物の生態に気がつき、経験を通して知識として自分に取り込んでいく。もちろんそこには、保育者の言葉がけや一緒に遊んできた経過もありますが、“センパイ”である、生き物好きなばんだ組の友達が毎日のように一緒に生き物を探し回ってくれたり、「ここにいるよ」と教えてくれたりもしました。生き物との出会いと同時に、一緒に暮らすお兄さん、お姉さんとの出会いがあったからこそ、園での新しい発見や気づきにつながりました。



## 夏野菜 大きくなあれ

運動場で遊んでいた4月下旬のある日、ぱんだ組さんが畑で何やらしている様子を見つけ、集まるこあら組の子たち。「なにやってんの?」と聞いてみると、「トマト植えるの」「トウモロコシも」とぱんだ組さんから言葉が返ってきます。じーっとその様子を見ているうちに、「やってみたい」とこあら組からも声が出ます。保育者「じゃあ、みんなもやってみる?」と場所をテラスに移動して、自分たちで育てる夏野菜の苗を植えました。「おおきなあれ」と、手や体を大きく振ったり、伸びをしたり、自分の表現で、野菜の生長に期待をもち、おまじないをかけているようでした。



さて、みんなが水やりをし、育てた野菜がついに収穫の時期を迎えました。はじめてのきゅうりの収穫です。大きくなるまで毎日のように、野菜のことを気にかけて、水をやって世話をしてきたので、初めてのきゅうりの収穫の喜びはとっても大きいものでした。色は?匂いは?触ってみてどう?「くさ〜い」「チクチクしてる」「こ〜んな曲がってる」とまたそれぞれの表現で、

きゅうりとの出会いを表します。収穫した野菜は、順番にお家に持ち帰ってもらいました。「塩をかけて食べた」や「サラダに入れて食べた」と教えてくれる子もいました。誰が持ち帰るのかは、にらめっこ勝負で決める。これも自分達で考えた方法でした。欲しいものがその時に持ち帰れなくても、笑っちゃう、素敵な方法を考えたなあと思いました。夏野菜はまだまだ生育中です。夏期保育期間にも持ち帰ってもらえるかもしれませんので、お楽しみに♡



## 「一緒に行きたい」

今年から始まった給食、友達や保育者が食べる姿に刺激を受けたり、一緒に食べる時間を共にしたりすることで、少しずつ食べられる量や食材が増えてきています。もちろん、献立によっては「食べたくない」「残す」「減らす」ということも日々ありますが、みんなで食べる時間が楽しいと感じられたり、今日は「〇〇が入ってるんやって」明日は「〇〇が出るんだよ」と楽しみな気持ちをもったりすることで、少しずつ食べられるようになったり、食事の時間がより楽しみになればいいなと願いながら過ごしています。保育者がおかずを皿に盛り付ける際、多い、中くらい、少ない分をそれぞれ用意したり、そこからさらに「減らす」や「増やす」という一人一人の声や食べたい量を食べたい量を大切にしながら、自己調整をしたり、「全部食べた」の満足感を感じられるようにしています。そんな給食の配膳の様子を見て、ある日「一緒に(配膳室まで取りに)行きたい」と一人の子がつぶやきました。保育者も「いいよ。じゃあ給食をもらいに行くのに、いるものある?」と声をかけると、ままごとで使っているエプロンや三角巾を身につけてやってきました。ほぼ毎日、3~4人、時には6人くらいの子たちが給食をもらいに、返しに行きます。「池さん、ごちそうさまでした」「給食おいしかったよ」と声をかける、そんな毎日が続いています。



## 色々な感触を感じる

春から、泥や水、米粉、寒天、絵の具、泡・・・様々な素材の感触に出会い、触れながら遊んできました。色や状態が変化する面白さを感じ、不思議さに出会いました。初めての時はドキドキ・・・でも、2回目、3回目と回数を重ねていくことで、「やってみようかな」という気持ちが膨らんできたり、手を、足を伸ばして触れてみたりしながら、少しずつ自分の世界が広がっていくように、遊びの経験を重ねてきています。



6月下旬からはプール遊びも始まりました。水が顔にかかるのが怖くてドキドキしたり、プールの底にお尻や手のひらをつけたりすることに対して「こわい」と話していたりしましたが、回数を重ねることで少しずつ水のなかで遊ぶ楽しさが感じられたり、「できた」が自信になったりして、大胆に水しぶきを上げて遊ぶ姿に変わってきています。手を背びれに見立てて頭にくっつけながら「サメだぞ～」と泳いだり、水中で両足を広げて座って「カニ」や「カメ」、腹ばいになって「ワニ」など、遊びのなかでの表現がとっても豊かで面白いです。生き物になって追いかけたり逃げたりして大胆に遊んだり、浮き輪に乗ってプカプカと浮かびながら水流に流されたりするような、静かに遊ぶ時間があったりと、個々のペースに合わせてながら、プールで遊んでいます。



今日は終業式。色んな『初めて』を経験した一学期が終わります。夏を元気に過ごしてほしいな、という願いから、『なつのげんきカード』を持ち帰ります。規則正しい生活を送って健康に過ごしてほしいのはもちろんですが、子ども達は着替えや食事の準備・片付け、排泄など、園の暮らしのなかで、力をつけてきていることがたくさんあります。ご家庭でも、お子様が身の回りのことを自分でしようとする姿を応援し、少し待ったり、サポートをしつつも最後のところは「自分でできた!」と感ぜられるような関わりをしていただければと思います。もちろん、無理なく、楽しく、お子様自身が「やってみよう」と思える所からスタートしてくださいね。「やってみよう」と思った時に挑戦できる準備を、整えてあげてほしいなと思います。

